

産

公

学

産学公連携事例

糸から紡ぎ出すオリジナリティあふれる生地と 独自の商品企画力で高付加価値化

～産学公連携による地域資源を活用した地元ブランドの確立をめざして～

ケンファッション <http://ken-fashion.com/>



竹繊維の研究に取り組んでおられる同志社大学の藤井先生と産学公連携で地域資源の有効活用と地元ブランド確立に取り組んでおられるケンファッション代表 渡辺謙一 氏に新事業の展開についてお話を伺いました。

一本の線を面にする仕事
～Made in japan以外には
こだわらない事へのこだわり

当社は設立当初から国内でのオリジナル商品の生産に一貫して取り組んでいます。もちろん原材料は海外から仕入れなければならないものもたくさんありますが、そのものの加工(糸染、織、編など)は全て日本国内で行われています。

現在、日本国内においては海外製品が圧倒的なシェアを占めており、当社におきましても厳しい状況下にはありますが、目の届く範囲でお客様のニーズに合う商品を提供したいと考えています。日本の昔ながらの素晴らしい技術を知ってもらいたい、エンドユーザーの方に手にしていただいで楽しく満足していただけるモノづくりをしたい、おこがましいようですが日本を元気にしたい、という思いで日々企画をしています。

例えば、ドビー織においては昔ながらの染色方法に現在の職人の技術で味付けし昔ながらの織機で現在の職人がゆっくりと丁寧に革新的な生地を織り上げます。使用する糸も天然繊維、化繊、合繊など多種多様な組み合わせを行うことで先染め特有の奥行きのある生地を生み出し、このほかにジャガード織、手織り、トーションレース、横編みそして今年よりラッセルも企画しています。

ケンファッションの由来

大学卒業後、私は広告代理店に就職し、4年間ほどサラリーマンとして勤めました。震災の年に転職が訪れ、これまでの広告代理店のようなサービスを提供するビジネスよりも、お客様に手にとって喜んでいただけるものを作って売りたいと、父の家業を継いで繊維業界に飛び込んだのが今から20年前で、その5年後にはケンファッションの代表となりました。

「ケンファッション」という屋号の由来は?もともと父が大阪にある糸の代理店に勤務していましたが、この先、糸を売るだけではビジネスとして将来はないと危機感が募り、生地を企画・開発・販売する店を独立開業させました。当時、屋号をつける際、息子である私の「謙」から取って「ケンファッション」と名付けられ、結果的には自分の名前が屋号となっているため、家業を継いだ後もそのまま変更せずに使用しています。



強み

当社の強みは、糸を仕入れ、染色、商品企画、協力工場から製品として出荷するまで一環して取り組むところです。具体的には、糸を寄り合わせて生地にする最初の工程では、糸そのものを先に染色(先染め)して、よりオリジナリティの高い製品に仕上がるよう、手間をかけているところが当社の強みと考えています。通常は、生地が織り上がってから染色(後染め)することがほとんどです。先染めの場合、デザイナーからの様々な模様・風合いについて細かなリクエストに応えることができますが、後染めではデザイナーからの様々な色を組み合わせるリクエストに応えることはできません。他社でこのような手間をかけている企業はほとんどないというのが現状です。

こだわり

当社では、糸から生地を織るための機械にもこだわりを持っています。織機は、国内でも数少なくなった、「アイワレピア」(昭和40年代)を現在も使用しています。太い糸を織るのに適した機械であり、細い糸との組み合わせもできるなど柔軟な対応が可能で、顧客であるデザイナーからの様々な細かいニーズに対応しているところです。

当社の生地売り方としては、展示会などに生地のサンプル帳を持ち込み、問屋や卸などに属するデザイナーに見ていただいて、後日、生地について細かなリクエストが届けられます。当社でリクエストに応じたサンプル生地を作成し、再度、デザイナーと協議を重ねながら納得していただいた時点で受注を受け、納品させていただくこととなります。その他には、顧客であるデザイナーから海外の展示会で手に入れたサンプル生地を当社に持ち込まれる場合があり、同じものができないか相談を受けることもあります。そういった時でも、当社では生地を模倣するだけでなく、デザイナーの意向に沿った新しい生地を提案させていただいています。

新事業の展開に向けて

この業界は非常に厳しい状況が続いており、今後も改善は見込めないことから、本業のかたわら新事業を展開したいと考え、様々なことにチャレンジしています。今、最も重点を置いているプロジェクトは、先染めされた竹繊維から作る「竹繊維バッグ」を新規開発するため、日々奔走しているところです。もちろん製品開発だけに傾注するのではなく、販売企画(仕掛け)についても考えており、特に地元イメージを大切に

して、「かぐや姫」というテーマ性を持った商品企画及び製品開発を進めているところです。地元京田辺市で盛り上がりを見せる「かぐや姫」にふさわしい色合いや風合いを備えた「竹繊維バッグ」を目指して地元専門家とコラボも進めているところです。また、地元イベントである「かぐや姫フェスタ」には、当社のプライベートブランドである「一真」を出展するなど地元PRや地元ブランド確立に向けて取り組んでいます。

※「一真」とは、オリジナル生地での企画・製造を行うケンファッションが独自性の高い自社の生地を使用した雑貨を企画・販売するプライベートブランドです。現在、当社の生地を使用し、契約デザイナーがアレンジを加えた「一品物」の「コサージュ」や「がまぐち」を販売しています。

最後に

最近、お客様の所で作られている当店の生地を使用したバッグのテレビショッピングの三回目が放送され1100セットが即完売となりました。これまで3回の放送で計2600セットをご購入いただいて本当に嬉しい気持ちで一杯となりました。今回、当社で初めて新事業として取り組んでいる「竹繊維100%



バッグ」の成功に向けて、一段と気合いを入れて積極果敢にチャレンジしていきます。



Company Data

ケンファッション

代表 渡辺 謙一
所在地 〒610-0341 京都府京田辺市薪茶屋前23-14
電話 0774-63-7106
設立 昭和三十五年十月
資本金 300万円
事業内容 オリジナル資材製造販売
ドビー織・手織り・ジャガード織・ゴブラン織・トーションレースなど

続いて、これまで産学公連携に御協力いただき、竹の高度利用及び新産業創出に向けて研究に取り組んでおられる、同志社大学理工学部機械システム工学科の藤井教授に「竹」の高度利用について現状と今後についてお話を伺いました。

放置竹林の課題解決のため、私どもの研究室では「竹」を新たな天然資源として用いた産業創出の研究を行っています。わが国で竹を産業素材として使おうとしたとき、(タダでも良いと言われても)竹林から工場までの伐採・運搬に要するコストが高く、単に木材代替製品や民芸品として使うだけではどのような製品も中国産にコスト面で太刀打ちできません。一方、インド・中国やその他の国の経済発展を背景として、今後の世界的な天然繊維の需要増と供給不足が予想されます。そこで、わが国の竹を広く活用し、工業資源化しようとするなら、繊維としての利用しかないと考えています。

また、竹繊維として利用する場合でも、細い竹繊維では非常に短いことから、細い糸が紡げないため(紐に近い)太目の糸にしか利用できないという制約があります。今回、ケンファッション渡辺社長が竹繊維を利用したバッグを企画製作されるにあたり、アドバイスさせていただいた内容を御紹介したいと思います。

まず、竹には抗菌作用があることはよく知られていますが、竹繊維にもこの機能を確実に付与するため、竹の青い表皮から煮出して抽出した「竹エキス」を竹繊維に塗布することを薦めています。ただ上述のように、竹繊維自身の足が短いため繊維同士が抜けやすくなっており、糸にした場合、「ほつれやすい」という現象が起こります。この課題に対する解決策としては、PVAのりに前述の「竹エキス」を混入し、竹繊維に塗布すると、抗菌性が高まるとともに、糸自身がほつれにくくなることが期待されます。

最後に、私の「竹」に関する研究の現状と今後について、簡単にお話したいと思います。

現在、「自動車の内装材」をテーマとして企業と共同研究を行っている

ます。自動車の内装材としてメインに使われるのはケナフですが、このケナフの代替となる天然素材として「竹繊維」を利用しようとするものです。

今後、世界的に見て中国をはじめとする新興国での自動車に対する需要は更に伸びることが確実視されていますが、ケナフの増産で需要を満たすことは困難な状況にあります。ケナフを増産するためには新たな耕作地を求めなければならず、地球環境破壊につながる恐れがあります。これに対して「竹」は、世界的にも(放置された)竹林が豊富に存在し、かつ伐採したとしても驚異的なスピードで生育しますので、地球環境にも優しい天然素材といえます。

コスト面から考えてみても、ケナフの増産には新たな土地が必要となり、当然価格も高くなっていきます。さらに、一年草のケナフでは天候不順にも左右されやすく、価格変動も激しくなります。一方、「竹」では、生育後数カ月～数年以内の竹であれば繊維を取り出すことはできるので、1年間というスパンでは価格変動もほとんどなく安定的に供給できるので、「竹」はケナフに代わって繊維を取り出すことのできる有力な天然素材であると確信しております。

最後に、「竹」の魅力にとりつかれ、京田辺の地で「竹繊維」を研究するものとして、近い将来、竹繊維を利用した製品が地元企業により開発され、京田辺「かぐや姫」ブランドとして確立していくことを期待しています。これからも私どもの研究が皆様のお役に立てるよう精力的に取り組んでいきたいと考えております。



竹製フレームの自転車と

お問い合わせ先

京都府中小企業技術センター 企画連携課 企画・情報担当 TEL: 075-315-8635 FAX: 075-315-9497 E-mail: kikaku@mtc.pref.kyoto.lg.jp